



中田ふれあいの樹林 保全管理計画

平成23年
横浜市

目次

- 1.本計画の位置づけ
- 2.本計画の対象区域
- 3.中田ふれあいの樹林概要
- 4.保全管理計画の基本方針
- 5.管理区分(ゾーニング)
- 6.施業計画

1.本計画の位置づけ

本計画は、中田ふれあいの樹林愛護会、横浜市環境創造局（みどりアップ推進課、南部公園緑地事務所）において、よりよい維持管理方針を定めるために話し合いのもとに合意を得て作成された。

2.本計画の対象区域

本計画の対象区域は中田ふれあいの樹林の指定区域とする。

所在：横浜市泉区中田町

開園：平成2年7月

面積：8334㎡

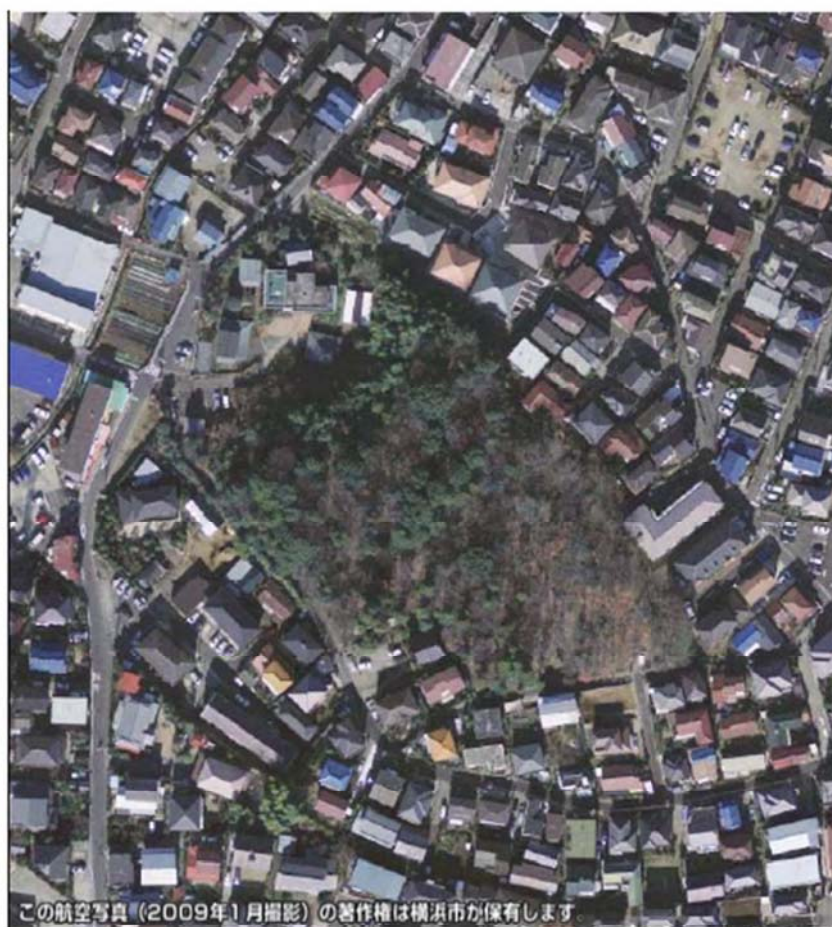


図1 中田ふれあいの樹林周辺航空写真

3.中田ふれあいの樹林概要

ここでは、中田ふれあいの樹林の概要について整理を行う。整理を行う項目は、利用の状況、鳥類の生息、昆虫の生息、植物の生育、管理の状況の5つとし、これらの項目を植生図や上記項目を参考に、特徴が似ていると考えられる4つの場所(A,B,C,D)に区分けし、特徴の整理を行った。

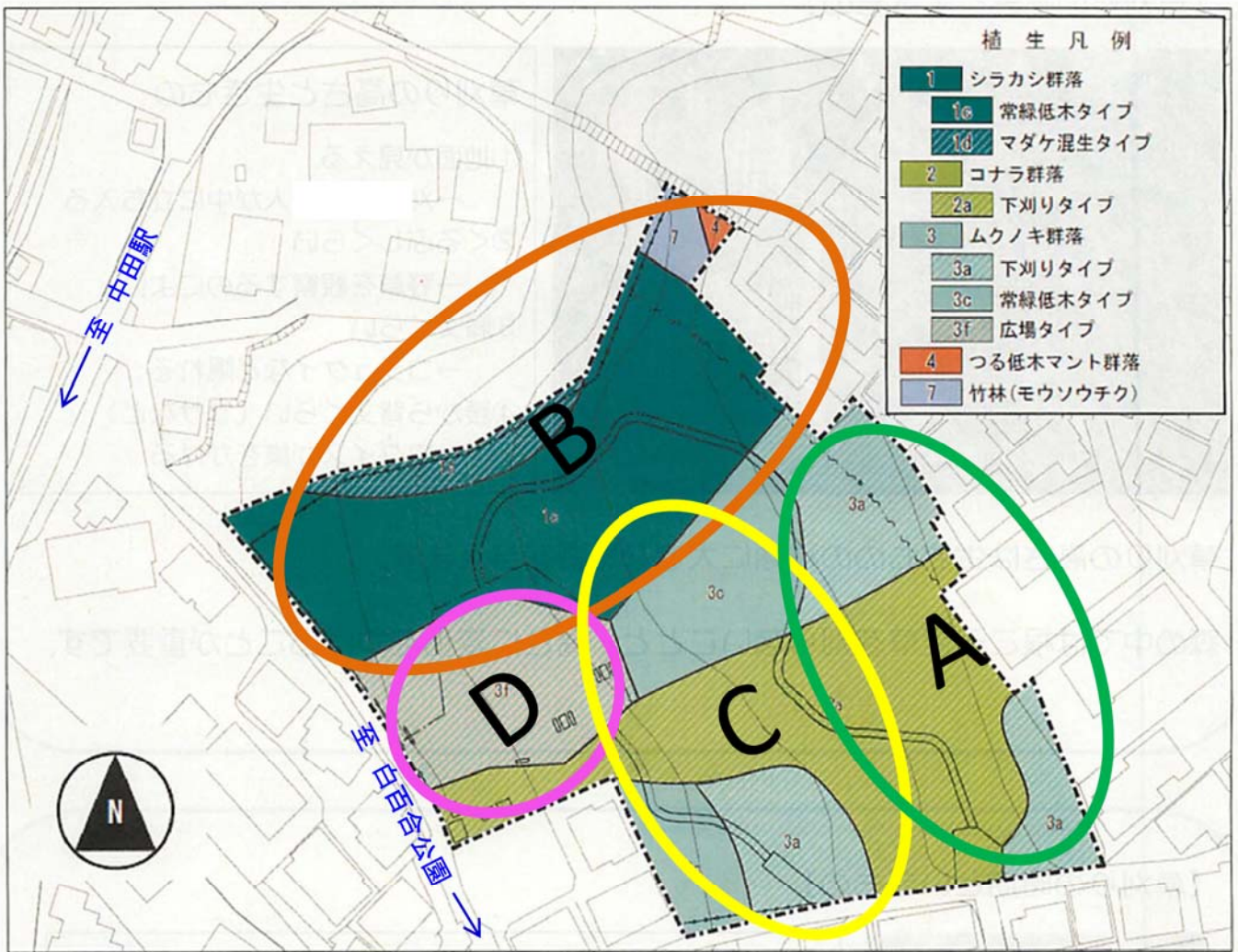


図2 中田ふれあいの樹林相関植生図

		A	B	C	D
利用		・昆虫を観察する	・散策をする	・散策をする ・通勤路として利用する ・カブトムシの幼虫を飼育する ・シイタケを栽培する	・食事をとる ・読書をする
鳥類		ドバト	アオゲラ、ウグイス、 オナガ、ツミ	コゲラ、ヒヨドリ	シジュウカラ
昆虫		オンブバッタ、コムスジ、 ゴマダラカミキリ、 チョウセンカマキリ、 ヤブキリ	アオスジアゲハ、カノコガ、 ツクツクボウシ、 ムラサキシジミ、モンキアゲハ	アブラゼミ、ミンミンゼミ、 ルリタテハ	アブラゼミ、ミンミンゼミ
植物	植物の生育：草本	アケビ、アズマネザサ、クサギ、 サルトリイバラ、チジミザサ、 ヨウシュヤマゴボウ	アズマネザサ、チジミザサ	アズマネザサ シラヤマギク、タチツボスミレ、 チジミザサ、ヒガンバナ、 ホウチャクソウ	チジミザサ、ヌルデ
	植物の生育：樹木	シロダモ、ヒサカキ、ミズキ	アオキ、シラカシ、シロダモ、 タケ、ヒサカキ	クヌギ、コナラ、ザクラ、 ハリギリ、ミズキ	ミズキ
管理の視点からみた 樹林内の状況		<ul style="list-style-type: none"> ・東側は住宅に隣接している ・林床にはササや落ち葉が堆積している ・常緑樹（中木）が生育している ・下草が繁茂している 	<ul style="list-style-type: none"> ・道路沿いの林縁部は、防犯に配慮し林床が低く刈りこまれている ・下草により法面の土壌流出を抑えている ・シラカシ林は、低木類を多少間伐した程度の緩やかな管理となっている ・階段に隣接した草地では、つる低木・マント群落が低く刈りこまれている ・過去には不法投棄が問題となった ・林床に植被が少ない ・林縁部の樹木が道路に越境している ・一部でタケが生育している 	<ul style="list-style-type: none"> ・北東側は住宅に隣接している ・外縁部、樹林内の樹木が2011年9月の台風で数本倒木した ・ムクノキ林、コナラ・クヌギ林の大部分の林床は低く刈りこまれ、低木は少数を残して除伐されている ・株立ちのコナラは本数を減らしてある ・チジミザサが生育しているが、適度に刈り込まれている ・林床に落ち葉が堆積している 	<ul style="list-style-type: none"> ・林冠木の一部は間伐されて林床は明るい、地表面は踏み固められて植被は少ない ・場所によっては林冠木がベンチの上に覆い、日光を遮断している ・道路沿いに一部植栽されているアジサイ等の低木が、樹林の乾燥から抑制している ・樹林が細い道路と接している。 ・樹林内の樹木が2011年9月の台風で数本倒木した
今後の検討事項		<ul style="list-style-type: none"> ・近隣住宅へ配慮した管理を行う ・草地に生息する昆虫が多く生息していることから、昆虫に配慮した草刈りを行う ・落ち葉かきを行い、地表面に日光を当て野草の生育を促す 	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯に対する配慮と法面保全の両方の視点により管理を行っていく必要がある ・竹林と接しているため、安全管理上の緊急度は低い、竹類の侵入を防ぐための継続的な植生管理が必要である ・不法投棄防止の観点からも、定期的な刈り取り管理を続けていく必要がある ・鳥類が多く生息していることから、鳥類に配慮した管理を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・倒木の恐れがある樹木は、今後注意の必要があるとともに、世代交代の検討が必要である ・チジミザサなど、林床の下草刈りを適切に行い、ホウチャクソウ生育環境を保全する ・落ち葉かきを行い、地表に日光を当て、多様な野草の生育を促す 	<ul style="list-style-type: none"> ・日光を遮断している林冠木については、必要な場合管理を行う ・道路沿いのアジサイは、道路からの視界に配慮し適切な高さ・間隔で管理を行う

4. 保全管理計画の基本方針

2. 中田ふれあいの樹林の概要をもとにして、以下の様に定めた。

- ① 周辺住民が自然とふれ合える場所を目指します。
- ② 植物・動物の生息環境を保全します。
- ③ 周辺住民の住環境に配慮します。

5. 管理区分

保全管理計画の基本方針をもとに、実際の樹林の植生や地形、利用等を考慮し、それぞれの場所の特徴ごとに今後の方向性を定めたゾーニング図（管理区分図）を作成した。ゾーニングは、場所の植生や特徴を考慮し、以下の4つのゾーンを設定した。

Aゾーン: 近隣の住環境と動植物の共存を目指した林縁

- ・ 住宅地と隣接していることから、周辺住民の住環境に配慮した場所を目指します。
- ・ 林縁部の環境を活かし、昆虫を観察できるなど自然と触れ合える場所を目指す。

Bゾーン: 動植物に配慮した落ち着いた常緑樹林

- ・ 隣接した竹林と連続した環境は薄暗い落ち着いた環境を好む生物が生息していることも考慮し、落ち着いた常緑樹林を目指す。

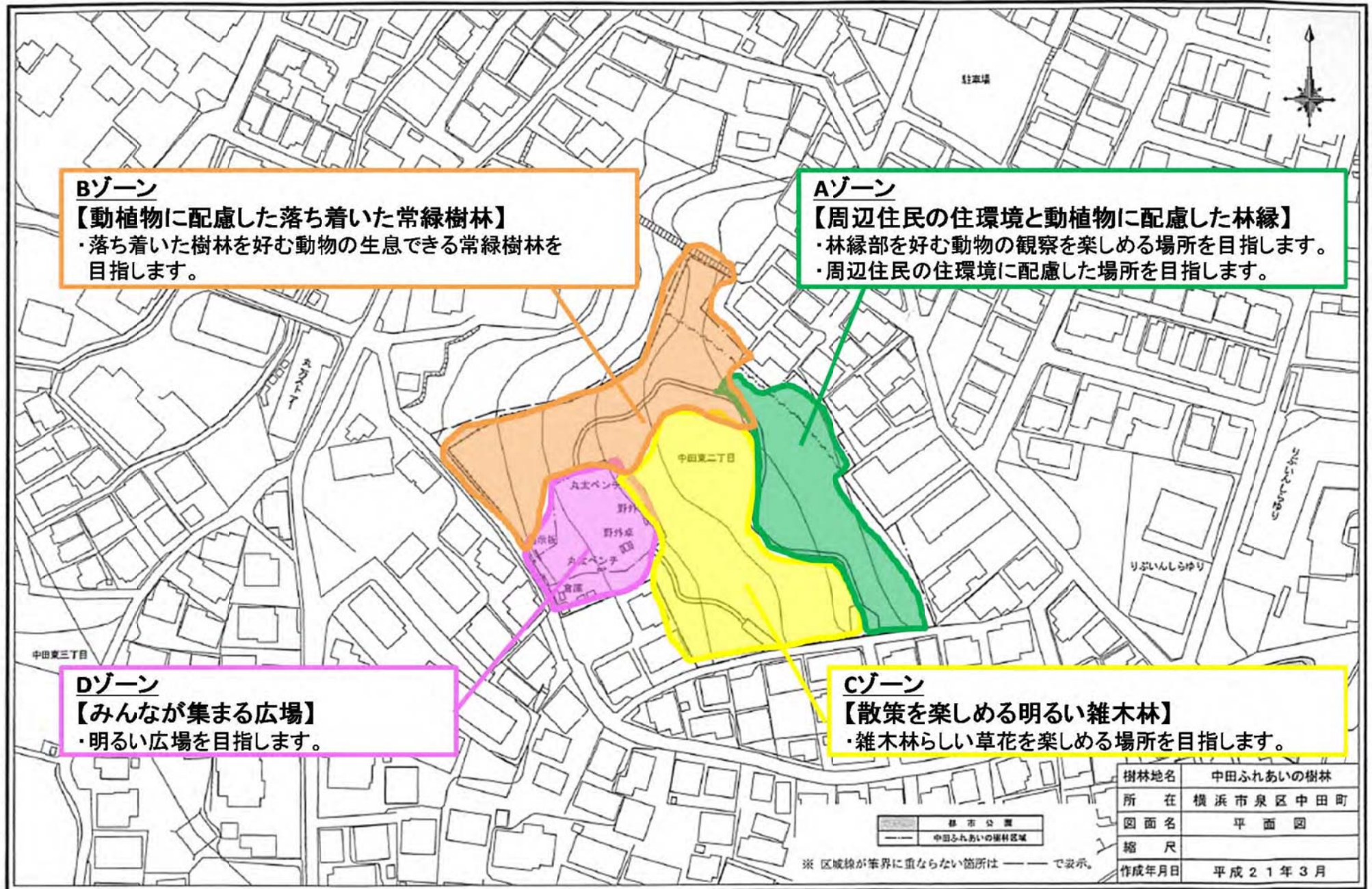
Cゾーン: 散策を楽しめる明るい雑木林

- ・ 明るい雑木林の林床ではハウチャクソウ等が生育していることを考慮し、雑木林らしい草花を楽しめる場所を目指す。

Dゾーン: みんなが集まる広場

- ・ 設置されたベンチで、食事をしたり、新聞を読むといった休憩している人の姿が見られることから、利用者が快適に過ごせる明るい広場を目指す。

図3 中田ふれあいの樹林保全管理計画ゾーニング図



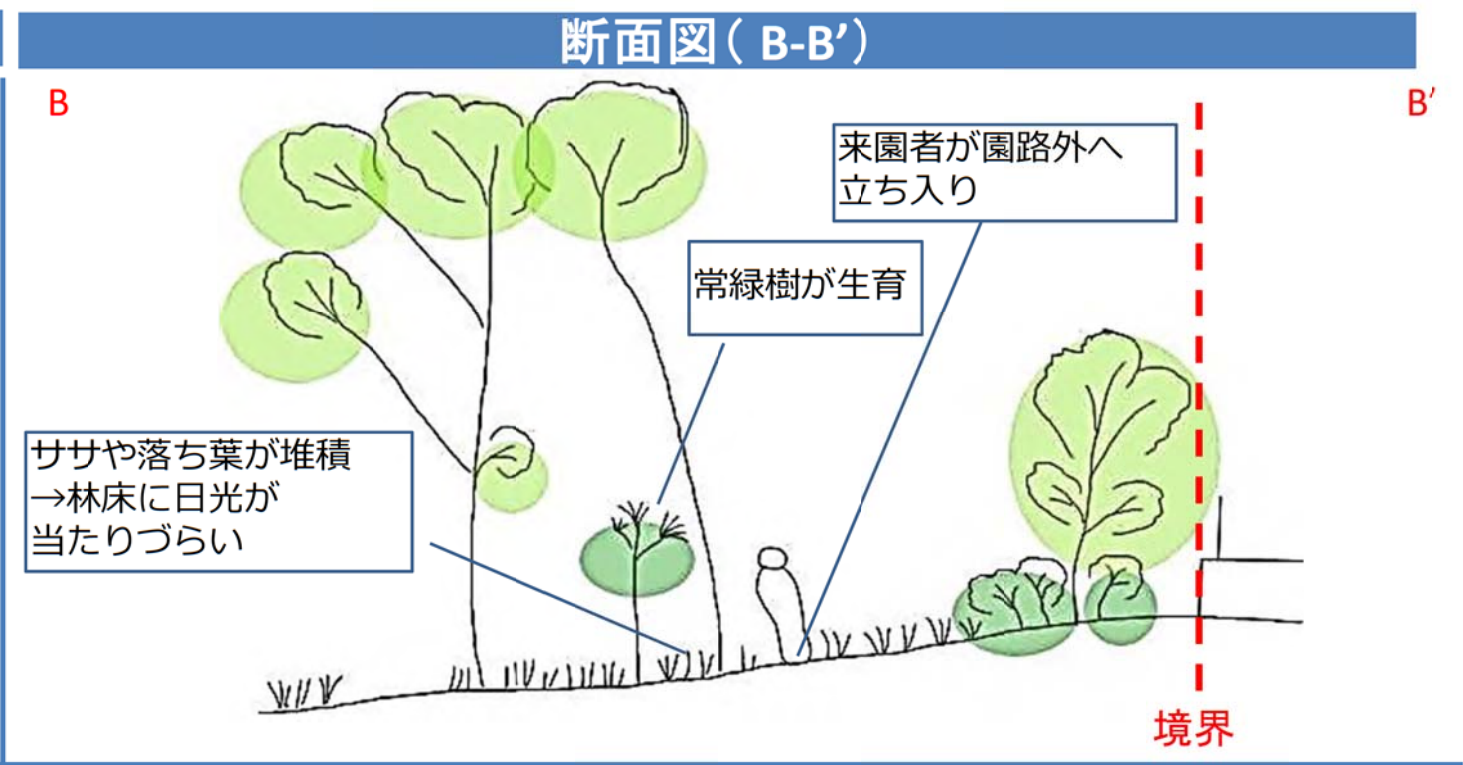
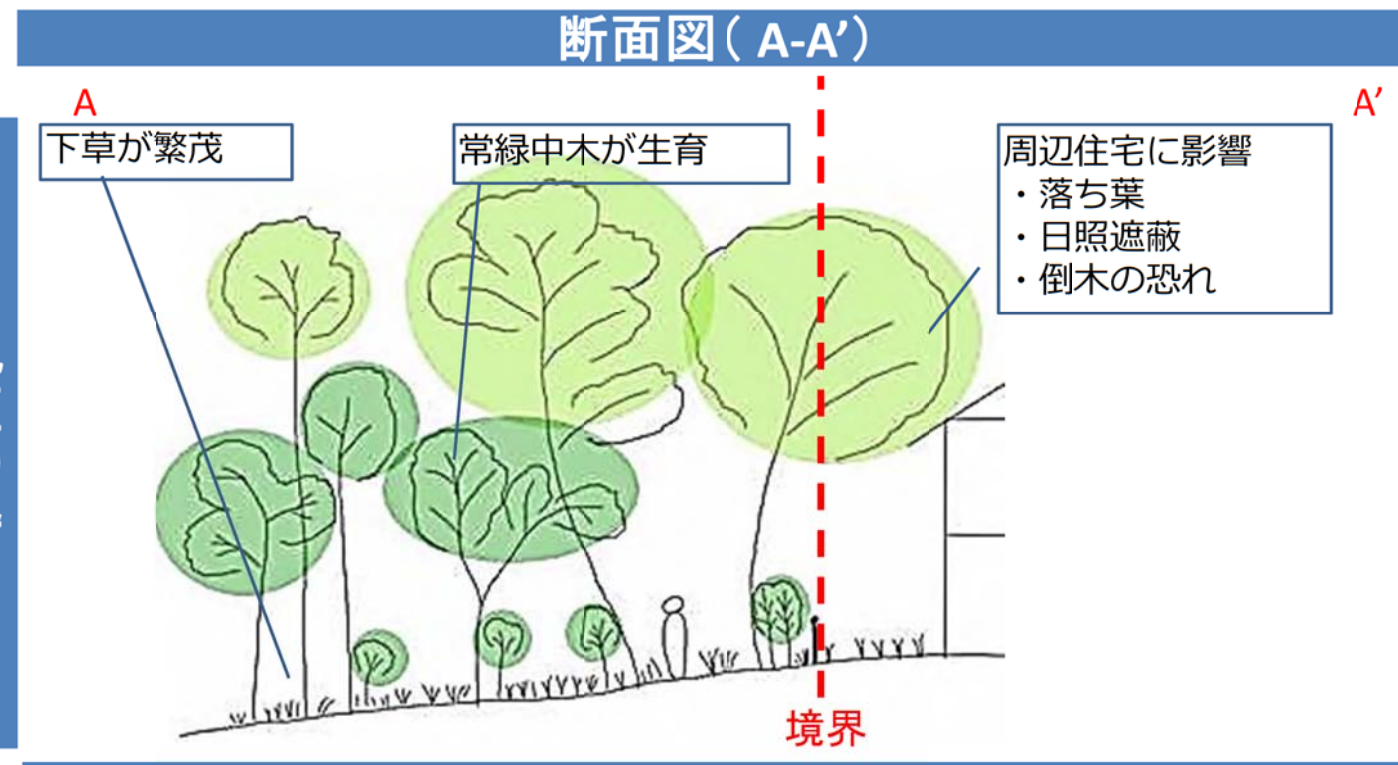
Aゾーン～近隣の住環境と動植物の共存を目指した林縁



実施テーマ

- ① 林縁部を好む動植物の観察を楽しめるよう草刈りを工夫します。
- ② 近隣の住環境に影響を与える植物に間伐・刈取りを行います。

現在の姿

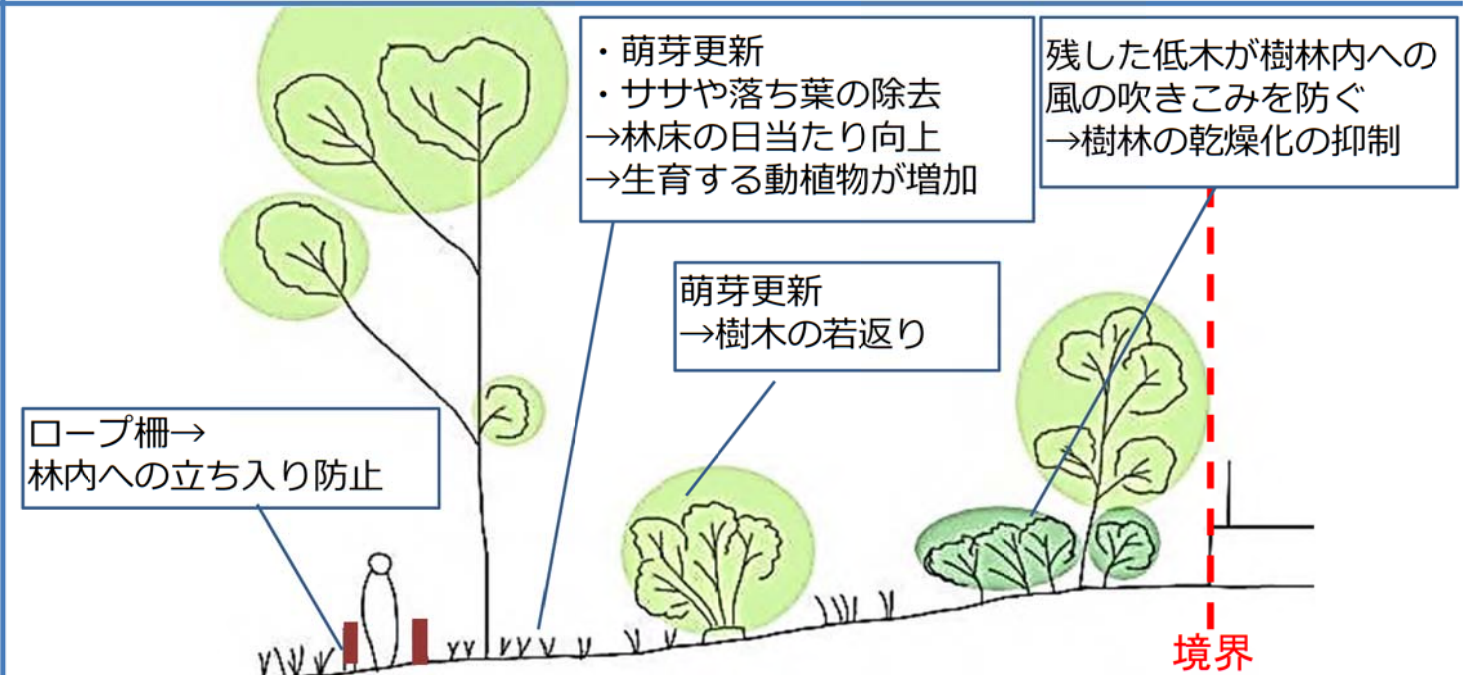
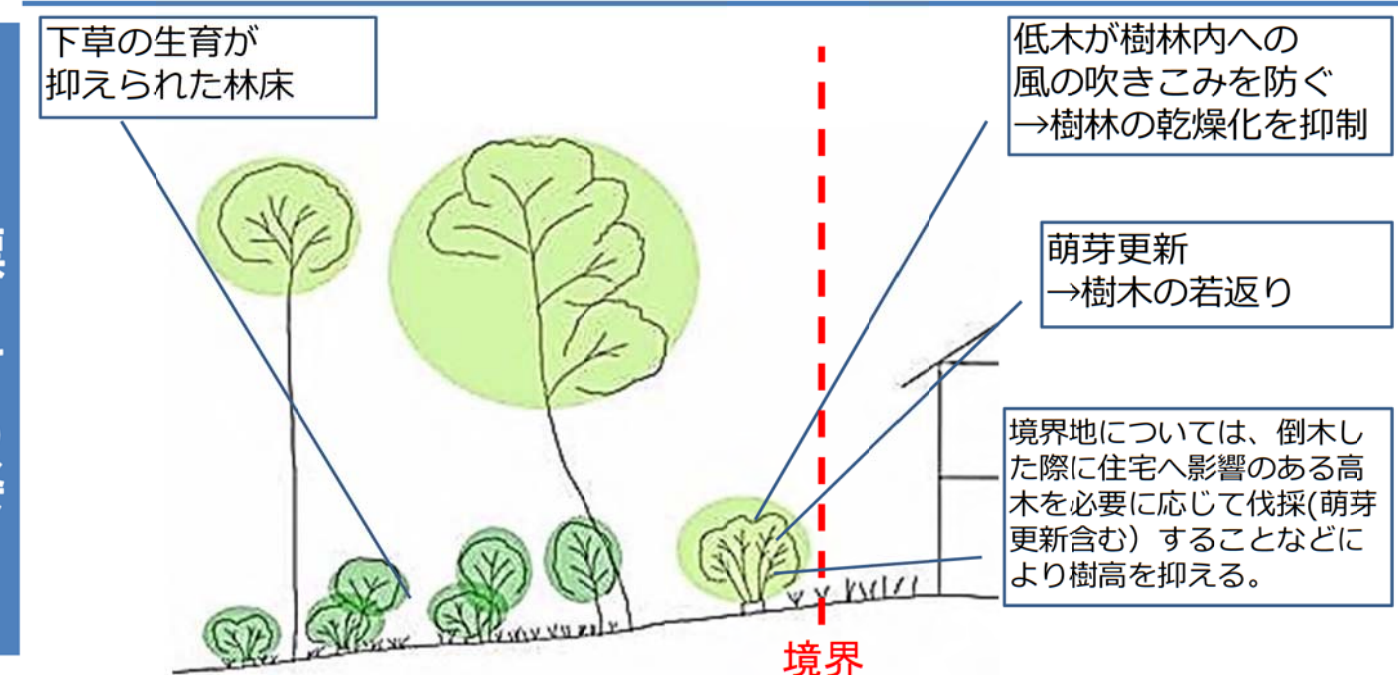


実施事項

- ① 下草刈りを実施する
- ② 常緑樹 (中高木) を伐採する
- ③ 不良木伐採・不良枝剪定を行う

- ① 下草刈りを実施する
- ② 常緑樹 (中高木) を伐採する
- ③ 落ち葉かきを実施する
- ④ 人の立ち入りを制限→地表面を保護する

目標とする姿



■作業内容

- ・草地及び林縁で、バッタやカマキリ、チョウ等の昆虫が生息できる環境をめざし管理を行う
- ・ヤブガラシ、サルトリイバラなどのつる性草本は適度に残す
- ・大きく成長して樹木を覆ってしまうツルや大型草本、低木類を整理し、林縁に適した低木を残す

①下草刈り

- ・草本やササ類を地際10cm程度で刈り取る
(刈り高を確保することで冬季の地表面の緑被が確保)
- ・草刈り作業は夏と冬に行う
(夏はササを抑えるため、冬は早春の植物の生育を促進するため)
- ・刈り取った草はその都度除去する(可能なら片付けは数日後)

②常緑樹の管理

- ・中高木は伐採する(萌芽更新)
- ・低木は残す(風を遮断し、林内の環境を一定に保つため)

③不良木伐採・不良枝剪定

- ・枯れた木など支障木は伐採する
- ・周辺環境へ影響を与える支障木は、その対応を公園緑地事務所と協議の上、枝下ろしや伐採のうち危険が伴うものは公園緑地事務所が行う
- ・間伐は冬季に行う(高木の若返りを進めるため)

④落ち葉かき

- ・堆積している落ち葉は取り除く(林床植物の発芽の妨げとなるため)

■作業スケジュール

作業	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①下草刈り			■		■					■	■	
②常緑樹木の管理									■	■	■	
③不良木伐採・不良枝剪定									■	■	■	
④落ち葉かき										■	■	

作業	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年
①下草刈り	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
②常緑樹木の管理		■			■	■			■	■
③不良木伐採・不良枝剪定	■								■	■
④落ち葉かき	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

毎年実施する作業

毎年実施しない作業

■ 作業実施推奨時期




■ 作業実施推奨時期

■ 作業実施可能時期

■ 作業実施可能時期

■指標種^{※1}

※1計画目標に沿って環境が保たれていることが確認できる種のことを指標種と定めた

種名	確認時期 ^{※3}	特徴など	写真
チョウセンカマキリ	8-11月	【指標性】 ・草地にエサとなる昆虫類が豊富に生息していることの指標となる 【生息場所】 ・原っぱや田畑、河川敷など、開けた環境を好む ・北東側の宅地に隣接した草地でみられる 【エサ】 ・バッタやコオロギ、チョウなどの昆虫を鎌足で捕らえ食べる	
ヤブキリ	6~11月	【指標性】 ・草地から樹林へのつながりや、林縁部の昆虫・植物の豊かさなどの指標となる 【生息場所】 ・幼虫：林周辺の草丈の高い草地 ・成虫：林縁の低木 【エサ】 ・幼虫はタンポポなどの花を食べる ・成長するにつれて肉食性が強くなり、昆虫をとらえて食べるようになる	
モズ	9月~5月	【指標性】 ・樹林内に餌となる動物が豊富に生息していることの指標となる 【生息場所】 ・木がまばらに生える草原や林の縁などにいる 【エサ】 ・カエル、トカゲ、バッタや小鳥などを食べる ・冬は植物の実(サンショウ、マサキなど)を食べることがある ・秋ごろには捕えた食べ物を小枝などに突き刺してはやにえを作る	

■注目種^{※2}

※2:該当する環境によく出現する種のことを注目種と定めた。

種名	確認時期 ^{※3}	特徴など	写真
コムスジ	5~10月	【エサ】 ・成虫：花の蜜、腐った果実、糞など ・幼虫：林縁などに生えるマメ科のフジなど 【特徴】 ・食草の多い林縁部で姿をよく見られる ・飛び方に特徴があり、はばたきと滑空を繰り返しワルツを踊る様に飛翔する	
オンブバッタ	8~12月	【エサ】 ・キク科の草を好んで食べる 【特徴】 ・丈の短い草原、空き地などに多く、人家周辺でもよく見られる ・肉食性のカマキリなどのエサとなる ・遠くまで飛ばず、草地によくみられることから子供の良い遊び相手となる	
クサギ	花：8~9月 実：10~11月	【特徴】 ・林縁で見られる ・高さ5m程になる落葉広葉樹 ・葉は8~15cm、葉の柄は2~10cmと長い ・花は白く、甘いにおりがする ・花の少ない夏季の貴重な吸蜜源として様々な虫が集まる アゲハチョウ、スズメなどがよく訪れる 【その他】 ・成長が早く放っておくとたくさん増える ・増えすぎない様、適度な管理は必要	

※3:成虫や花がみられる時期

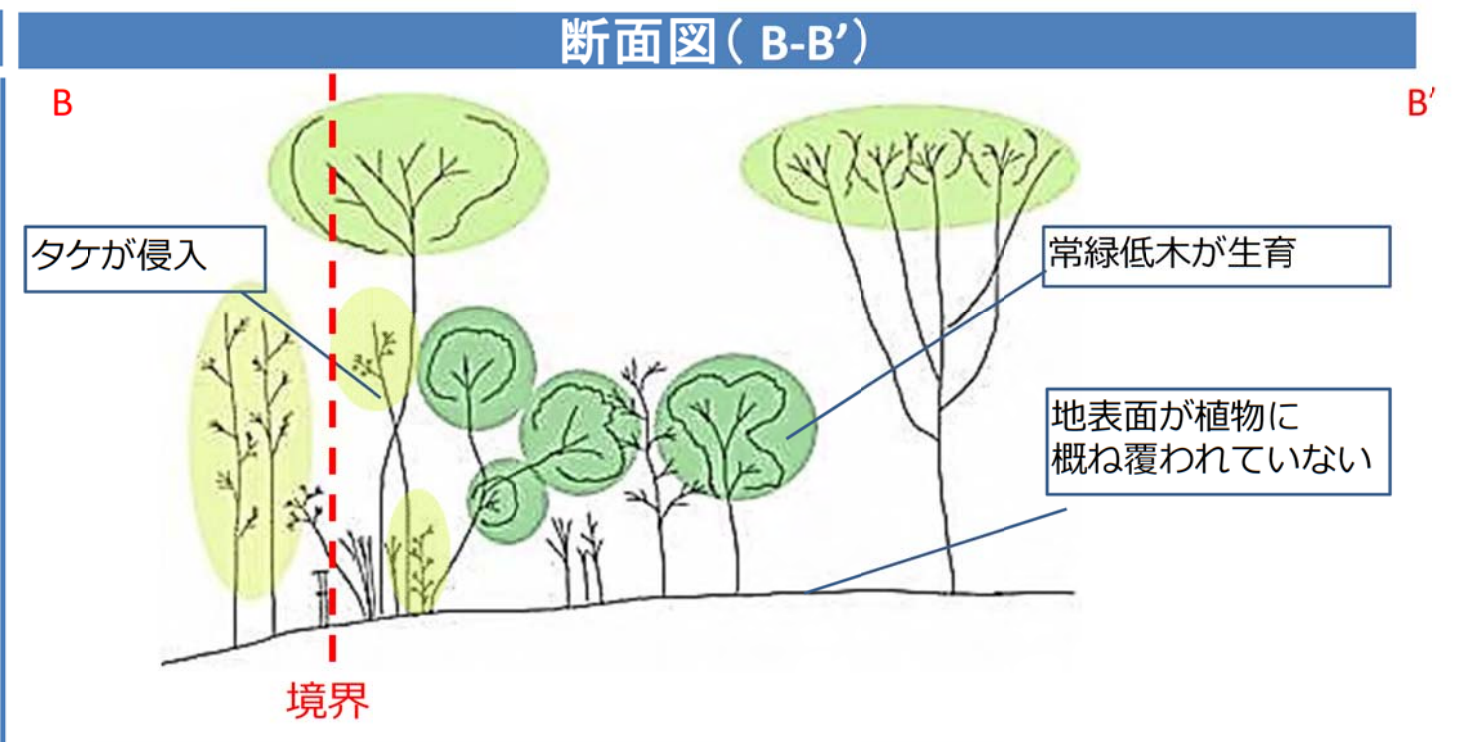
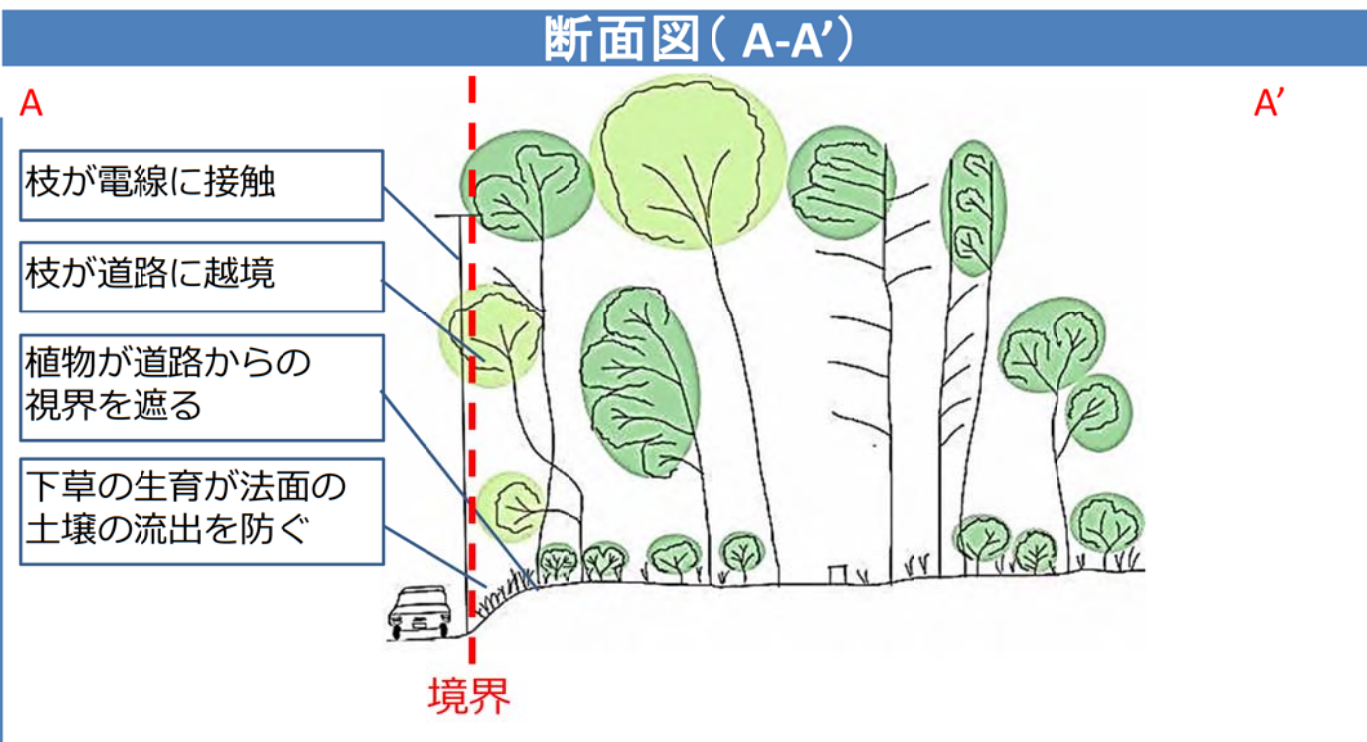
Bゾーン～動植物に配慮した落ち着いた常緑樹林



実施テーマ

- ① 落ち着いた樹林を好む動物の生息できるように常緑樹林に遷移します。
- ② 利用者の安全に配慮した草刈りを行います(道路沿い)。

現在の姿

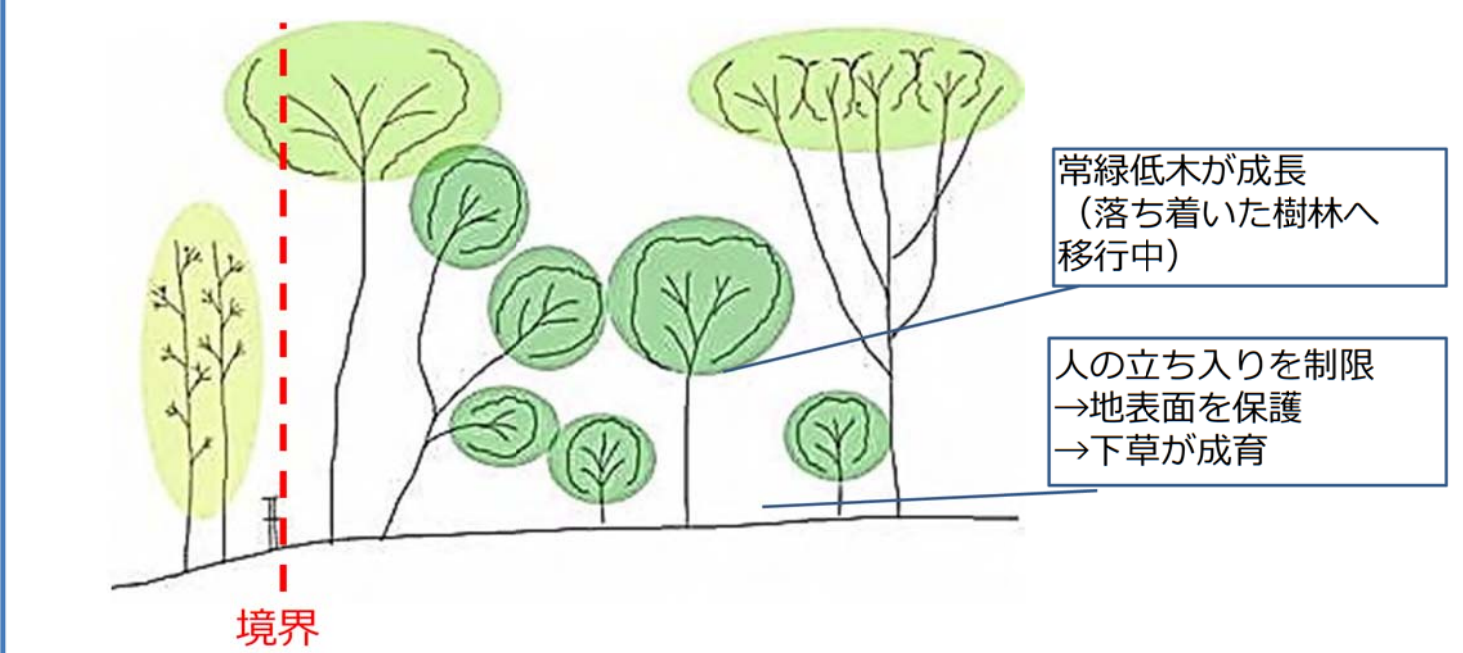
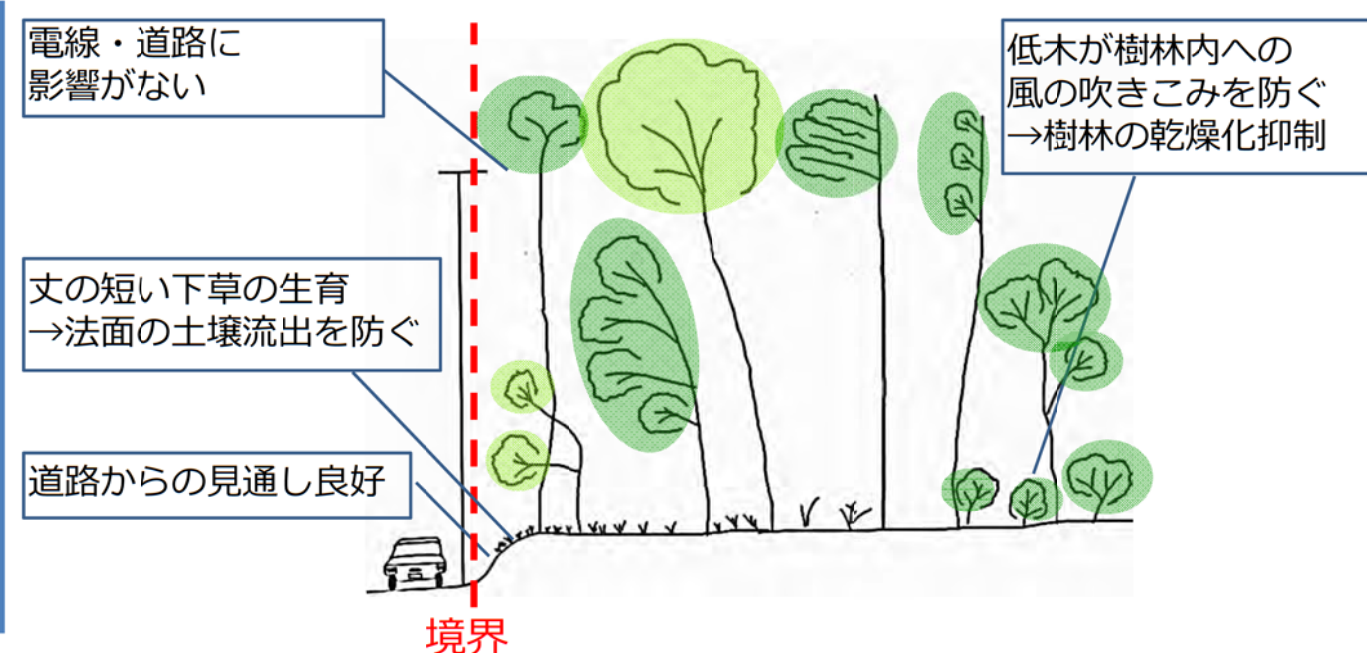


実施事項

- ① 周辺に影響のある樹木を管理
- ② 道路からの視界に配慮した管理
- ③ 法面土壌流出に配慮した管理

- ① 侵入してきた竹を伐採
- ② 低木の整理
- ③ 人の立ち入りを制限→地表面を保護

目標とする姿



■作業内容

- ・ 込み入った高木や低木がある場合、高木が密生するようなら必要に応じて間伐などの管理作業を実施する（定期的な管理は必要ない）
- ・ 樹林内で鳥の利用頻度が高いエリアであるため、繁殖期には作業を控える（3月～6月）
- ・ 林床が暗く林床の植物が貧弱であるため、人の立ち入りを抑制し、地表面を保護する
- ・ 安全へ配慮し、道路からの見通しに配慮した管理を行う

①竹の除伐

- ・ 竹の地上部に養分がある夏に伐採する。竹は節のすぐ上で刈る（節に溜まった水でボウフラが繁殖するのを防ぐため）

②低木の整理

- ・ 同一種の常緑低木が多数密生している場合は、林床に光が入るよう適宜間伐する
- ・ 間伐した低木類は、1箇所にとめるか搬出する

③不良木の伐採

- ・ 主幹が折れた木、枯れた木など、ほとんど再生の見込みがない不良木は、その対応を公園緑地事務所と協議の上、危険が伴うものは公園緑地事務所が行う

④道路からの視界に配慮した管理

- ・ 林縁沿いは、道路からの視界が確保できるよう下草刈りを行う
- ・ 下草刈りを行う際、動植物への生育環境に配慮する（例えば、チョウの食草となるサルトリイバラやカラスザンショウは、一部範囲で刈り残す）
- ・ 下草刈りを行う際、地表面より10cmで下草刈りを行う→法面土壌流出の防止


■作業スケジュール


作業	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①竹の除伐	×	×	×									×
②低木の整理	×	×	×									×
③不良木の伐採	×	×	×									×
④道路からの視界に配慮した管理	×	×	×									×


作業	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年
①竹の除伐										
②低木の整理										
③不良木の伐採										
④道路からの視界に配慮した管理										


毎年実施する作業

毎年実施しない作業

 作業実施推奨時期



 作業実施推奨時期

 作業実施可能時期

 作業実施可能時期




■指標種

※1計画目標に沿って環境が保たれていることが確認できる種のことを指標種と定めた

種名	確認時期※3	特徴など	
ウグイス	4月～8月 (さえずりを聞くことができる時期)	【指標性】 ・ 落ち着いた藪環境を確認する指標となる 【生息場所】 ・ 平地、山地とわず藪の中で営巣、活動する 【エサ】 ・ 夏は、クモなどの昆虫を食べ、冬はヌルデなどの実などを食べる 【その他】 ・ 「ホーホケキョ」の鳴き声でよく知られている	
オナガ	5月～8月 (繁殖期)	【指標性】 ・ 鳥の餌となる植物や昆虫の生息を確認する指標となる 【生息場所】 ・ 木々が比較的残る街や郊外、村落などでみられる 【エサ】 ・ 木の実や果物、昆虫、小鳥の卵など雑食性である 【特徴】 ・ カラスの仲間では頭が良く群れで行動する ・ 尾羽が20-23cmと長いことから、オナガと名付けられた	

■注目種

※2:該当する環境によく出現する種のことを注目種と定めた。

種名	確認時期※3	特徴など	
アオスジアゲハ	4～10月	【エサ】 ・ 成虫：花の蜜 ・ 幼虫：スズメバチ科の植物の葉（タブノキ、ニッケイ） 【特徴】 ・ ヤブガラシなどの、白や紫の色の花に来ることが多い ・ 産卵する葉を探して林内を飛び回る姿が見られる	
モンキアゲハ	関東地方では年2回 (5月～6月、8月～9月)	【エサ】 ・ 成虫：花の蜜（ミカン類、クサギ、ヒガンバナ等） ・ 幼虫：カラスザンショウ 【特徴】 ・ 体温調節のため、日向と日陰を交互に飛ぶ姿が見られる ・ 低山地の常緑樹林に生息する	
ムラサキシジミ	6月～ ほぼ周年	【エサ】 ・ 成虫：花の蜜 ・ 幼虫：カシ類 【特徴】 ・ 若い葉を好むので、カシ類を萌芽更新すると増加する ・ 成虫の状態越冬する	

※3:成虫や花がみられる時期

Cゾーン～散策を楽しめる明るい雑木林

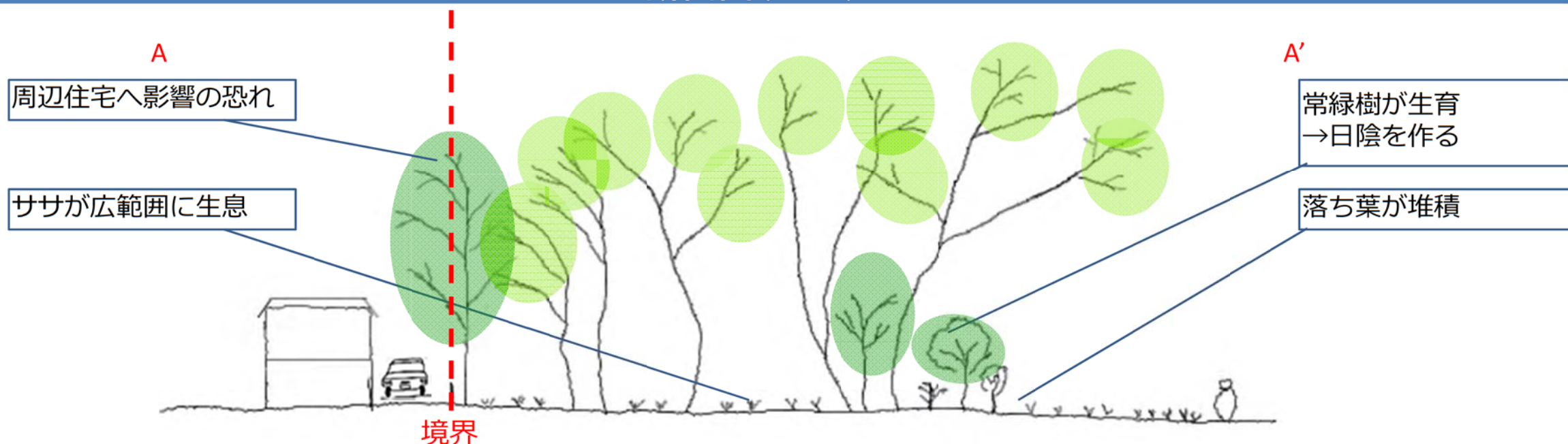


実施 テーマ

- ① 雑木林らしい草花を楽しめる様に下草刈を工夫します。
- ② 萌芽更新による樹木の若返りを検討します。

断面図 (A-A')

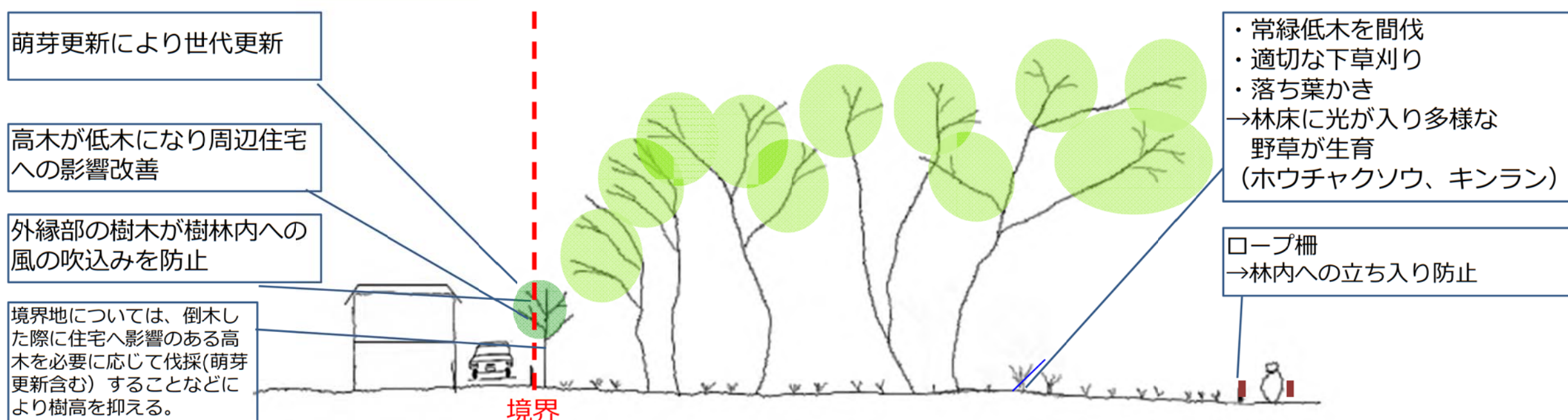
現在の姿



実施事項

- ① 下草刈り
- ② 常緑樹の間伐
- ③ 不良枝・下枝剪定
- ④ 落ち葉かき
- ⑤ 人の立ち入りを制限 → 地表面を保護する

目標とする姿



■作業内容

- ・見通しを確保するように、低木から高木まで間伐し、林床に十分な光が届くようにする。
- ・安全確保のため、衰退木、不良枝は原則として伐採する。
- ・林内へ人が立ち入りやすい環境になるため、園路沿いにロープ柵等を設置する。
- ・土壌流出を防止するため、間伐材を活用した土留めの設置を検討する。

①下草刈り

- ・草本やササ類を地際10cm程度で刈り取る(刈り高を確保→冬季の地表面の緑被確保)
- ・草刈り作業は夏と冬に行う(夏はササを抑え、冬は早春の植物の生育を促進する)
- ・刈り取った草はその都度除去する

②低木の整理

- ・常緑樹は原則として伐採、搬出する。
- ・植被率が高く見通しや歩行の障害となる落葉樹は、適宜間伐、搬出し林床に光があたるようにする

③不良枝・下枝剪定

- ・安全・見通しを確保するため、枯れ枝や葉つきの悪い大きな枝、高木の余分な下枝はその対応を公園緑地事務所と協議の上、枝下ろしや伐採を公園緑地事務所が行う

④落ち葉かき

- ・堆積している落ち葉は取り除く(林床植物の発芽の妨げとなる)

⑤つる切り

- ・高木に絡みついているつる植物は、根元からきる。(林床が明るくなる→つる植物も活発になり、樹木の生育を阻害する)

⑥不良木伐採

- ・主幹が折れた木、枯れた木など、ほとんど再生の見込みのない不良木は、その対応を公園緑地事務所と協議の上、危険が伴うものは公園緑地事務所が行う

■作業スケジュール




作業	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①下草刈り				■	■						■	■
②低木の整理							■	■	■	■	■	
③不良枝・下枝剪定						■	■					
④落ち葉かき										■	■	
⑤つる切り								■	■	■		
⑥不良木伐採									■	■	■	

作業	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年
①下草刈り	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
②低木の整理	■			■	■				■	■
③不良枝・下枝剪定	■								■	■
④落ち葉かき	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
⑤つる切り	■			■	■	■				
⑥不良木伐採	■								■	■

- 毎年実施する作業
- 作業実施推奨時期
 - 作業実施可能時期
- 毎年実施しない作業
- 作業実施推奨時期
 - 作業実施可能時期



■指標種

※1:計画目標に沿って環境が保たれていることが確認できる種のことを指標種と定めた

種名	確認時期※3	特徴など	写真
シジュウカラ	4~7月 (繁殖期)	【指標性】 ・林内にエサとなる昆虫類が豊富に生息していることの指標となる 【生息場所】 ・二次林、公園や住宅地などの緑の多い場所 ・樹洞に巣をかける ・行動範囲が狭い (生まれた場所から平均で半径300m以内) 【エサ】 ・昆虫の幼虫・成虫、植物の種子、果実等を食べる ・樹林内の下層部で採餌し、樹木の幹や地上、低木や藪の中などで餌を探す	
カブトムシ	6~8月	【指標性】 ・樹液を出す樹木があるかについて指標となる ・落ち葉の分解が進み腐葉土が生成されているかについて指標となる 【生息場所】 ・雑木林(腐葉土に産卵する) 【エサ】 幼虫:腐植土(腐葉土)を餌とする 成虫:クヌギ、コナラなどの樹液に集まり吸汁する	
ホウチャクソウ	4月~5月 (開花時期)	【指標性】 ・草刈りの時期を間違えると種が落ちず、翌年以降、継続的に姿をみることができなくなるため、草刈りが適切に行われているか確認する指標となる。 【生息環境】 ・明るい林床に生息	

■注目種

※2:該当する環境によく出現する種のことを注目種と定めた。

種名	確認時期※3	特徴など	写真
エナガ	4~6月 (繁殖期)	【エサ】 ・小枝や葉の表面についているチョウ・ガ類の卵・幼虫・成虫、アブラムシ類の卵・成虫などを主食として食べる ・熟した果実・樹皮の割れ目からにじみ出た樹液、木についた菌類も食べる事がある 【特徴】 ・山地や丘陵地の林、平地の草原などに生息する ・群れで木々のなかほどの高さを鳴きあいながら枝から枝へ食べ物を探しつつ移動する。	
ルリタテハ	6月から周年	【エサ】 ・幼虫:ユリ科(サルトリイバラなど) ・成虫:クヌギ・コナラなどの樹液、果実など ・越冬後はキブシなどの花で吸蜜 【特徴】 ・雑木林の周辺などを素早く飛び、樹幹や木の枝で羽を広げて休む ・成虫越冬する	

※3:成虫や花がみられる時期

Dゾーン～みんなが集まる広場



実施 テーマ

①利用者が快適に休める広場管理を行います。

断面図 (A-A')

現在の姿



実施事項

- ①ベンチで休憩している人に適度に日光が当たる様、樹木を管理する。
- ②樹林内への立ち入りを防止し、地表面を保護する。

目標とする姿



作業内容

①不良木伐採・不良枝剪定

- ・広場利用者に適度に日光が当たる様、日光を遮る樹木に対して枝下ろしや伐採を行う
- ・広場利用者に危険な枯れ枝等がある場合は、枝おろしを行う
- ・管理の対応については公園緑地事務所と協議の上、剪定や伐採のうち危険が伴うものは公園緑地事務所が行う。

■作業スケジュール

場所	作業	頻度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
Aゾーン	①下草刈り	毎年			■		■					■	■	
Bゾーン	④道路からの視界に配慮した管理	毎年	×	×	×		■	■						×
Cゾーン	①下草刈り	毎年				■	■					■	■	
Aゾーン	②常緑樹木の管理	3～5年間隔									■	■	■	
Bゾーン	①竹の除伐	毎年	×	×	×		■	■						×
Bゾーン	③不良木の伐採	10年間隔	×	×	×							■	■	×
Cゾーン	⑥不良木伐採	10年間隔										■	■	
Aゾーン	③不良木伐採・不良枝剪定	10年間隔										■	■	
Cゾーン	③不良枝・下枝剪定	10年間隔					■	■						
Bゾーン	②低木の整理	必要に応じて	×	×	×	■	■	■	■	■	■	■	■	×
Cゾーン	②低木の整理	3～5年間隔								■	■	■	■	
Cゾーン	⑤つる切り	10年間隔										■	■	
Aゾーン	④落ち葉かき	毎年										■	■	
Cゾーン	④落ち葉かき	毎年										■	■	

毎年実施する作業		毎年実施しない作業	
■	作業実施推奨時期	■	作業実施推奨時期
■	作業実施可能時期	■	作業実施可能時期